

演題内容

最優秀賞
防災 DE クールジャパン



都島消防署
消防司令補
砂山 周作

「めっちゃいけてるー」「やばー」「It's cool!」。今の若い世代は楽しい事おしゃれな事、かつこい事を、このような言葉で表現します。言葉だけでなく、ファッションや遊びの最先端はいつの時代も若い世代が中心であり、スポーツでの新記録、仕事での斬新なアイデア等、エネルギーあふれる若い世代から生みだされる事が多々あります。私達消防も若い力が結集し、組織の未来を担っていくことが期待されています。

最近、気になっていることがあ

ります。それは消防訓練や防災訓練の時のことです。依頼された地域へ出向き、防災訓練をサポートするわけですが、その時参加している市民の方々を見て、思うことがあるのです。「若い方が少ない」と。防災訓練に限らず、防災に関する地域の講演会等でも参加されているのは60歳前後の方が中心で、20歳〜30歳の若い世代はあまり見かけません。日本では自然災害が数多く発生し、防災の大切さ、命の大切さはよくわかっていながらも行動するには至らない、というのが現状のようです。

このままでいいのでしょうか？ 阪神・淡路大震災、東日本大震災で救出された方の多くは自力、または周りの人の力によって救出されています。この周りの人の力、共助の力というのは日頃の防災訓練によって向上する事は言うまでもありません。若い世代が中心となって防災訓練に積極的に参加する事がその地域を盛り上げ、災害発生時における共助による救出率が向上すると、私は考えます。

なぜ防災が若い世代に広まらないのでしょうか。その原因の一つとして「防災」という言葉に対し、「固い、めんどうくさい、おしゃれじゃない」という印象があるようです。若い世代は楽しく、お洒落で、かつこい事が好きな為、防災訓練の真面目な内容や機能性重視の防災グッズを見ると、その真逆の印象を受けてしまうのも無理はありません。私はどうにかして、この防災と若い世代の深い溝を埋めたいと考えています。

そのためには、行政がじっと待っているのではなく、行政から若い世代に対しどんどん歩み寄っていくことが大切です。若者向けのFMラジオ局とタイアップして、防災の日に特集を組んでもらい、ミュージシャンに防災について熱く語ってもらったり、お洒落なカフェでトーク会を開いて消防職員が相談役に回ったり。すこし飛びぬけた内容かもしれませんが、あらゆるアイデアで若者の防災への興味を引き出すことが重要です。

最近では山ガール、旅ガールな

らぬ「防災ガール」という名の一般社団法人があります。「防災をもっとお洒落に」というコンセプトのもと、デザイン性の高い防災グッズ販売や、スマートフォンアプリを活用した次世代型避難訓練の実施など、若い世代に防災に興味を持ってもらおうと活動しています。

私たち消防職員も、これまでにない発想で多くの人をやる気にさせるアイデアが求められています。若い世代が中心となって自分達の街や大切な人の命を守るために動く、これほどcoolでいける事がほかにあるでしょうか。その思想を持った若者は、自分の国をきつと好きになるだろうし、今よりもっと災害に強い日本になるかもしれません。きっかけとなるのはCoolでEcoなアイデアを持った、私達ファイアリーダーにかかっています。

優秀賞

市民のために



浪速消防署
消防司令補
竹田 茂広